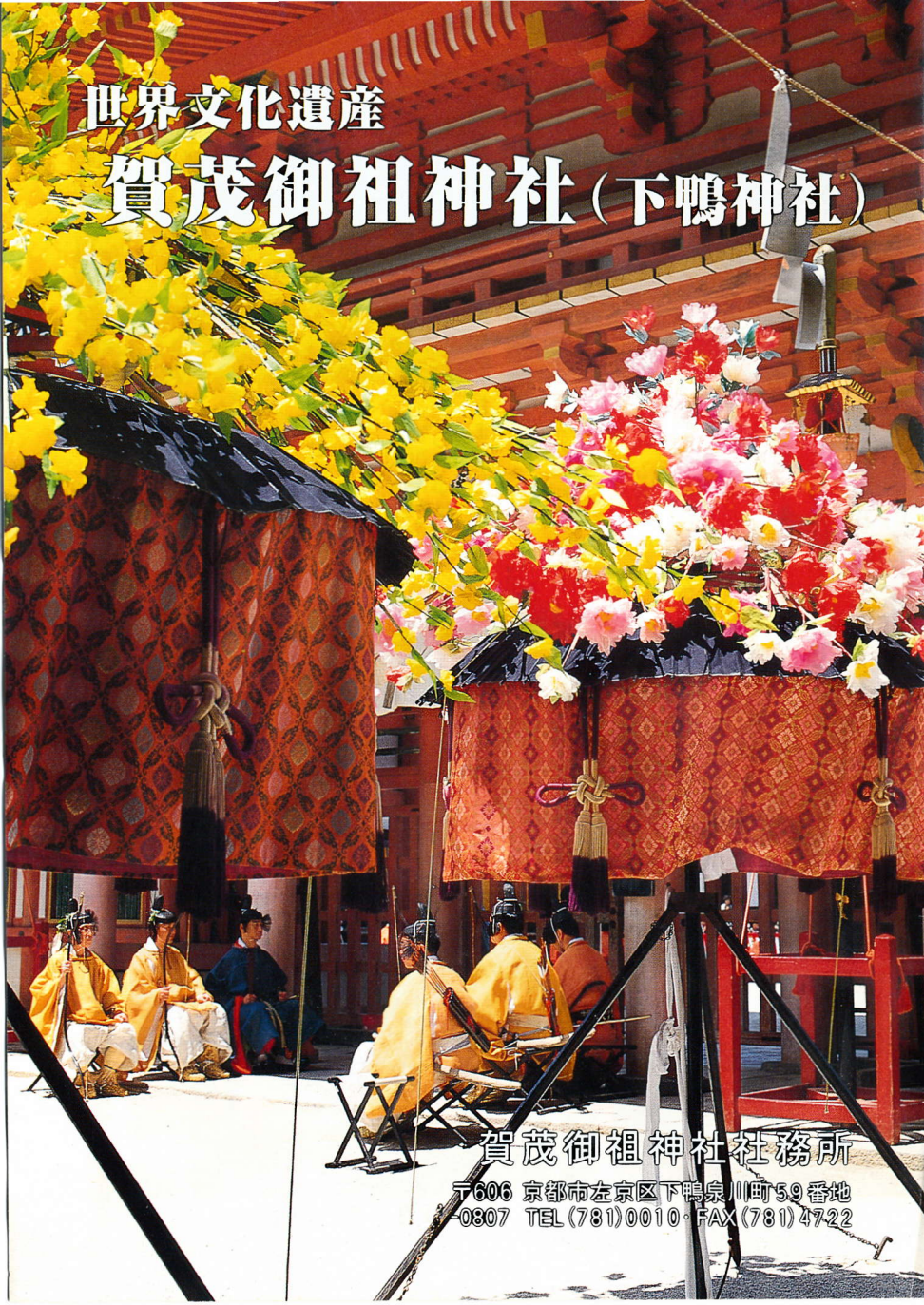


世界文化遺産

# 賀茂御祖神社(下鴨神社)



## 賀茂御祖神社社務所

〒606 京都市左京区下鴨泉川町59番地  
0307 TEL (781)0010・FAX (781)4722

## 下鴨神社(賀茂御祖神社)ご案内



- 京阪出町柳駅・叡電出町柳駅より徒歩8分(三条京阪で地下鉄東西線連絡)
  - 地下鉄北大路駅より市バス①㊸下鴨神社前(または糺の森)下車
  - 京都市バス ④㊸ //
  - 阪急河原町駅より市バス ④㊸ //
- ※駐車場は神社の西側と南側でございます。(参拝・婚礼は無料)

ただいま国宝重要文化財の社殿のご修理のため、  
ご協力をお願いしています。  
お問い合わせは社務所内式年遷宮奉賛会まで。

<http://www.shimogamo-jinja.or.jp>

糺の森を大切に  
しましょう。

表紙写真: 横山 健蔵





正式には「賀茂御祖神社」とよびます。京都は鴨川を中心に町づくりがなされており、鴨川の downstream にまつられているお社というところから「下鴨さん」とか「下鴨神社」と親しくよばれています。東西の二殿の本殿（写真・裏面地図①）はともに国宝です。

玉依媛命たまよりひめのみこと（東殿）

賀茂建角身命かまたつのみかみのみこと（西殿）

賀茂建角身命は、古代の京都をひらかれた神さまです。山城の国一宮として京都の守護神としてまつられています。平安京が造営されるにあたって、まず当神社に成功のご祈願が行われました。以来、国民の平安をご祈願する神社と定められました。

山城国「風土記」などに、玉依媛命が鴨川で禊（身を清める儀式）をされているときに、上流より流れ来た丹塗の矢を拾われて床におかれたところ、矢は美しい男神になられ、結婚された。そしてお子をお生みになったとの神話が伝えられていますので、古くから縁結、子育ての神さまとして信仰されています。

当神社は、国家国民の安徳と世界平和をご祈願する守護神であるとともに、厄除、縁結、安産、子育て、交通安全など人々の暮らしを守る神さまです。

## 歴史・創記

当神社がまつられたのは、崇神天皇の二年（BC二）に神社の瑞垣の修造がおこなわれたという記録があり、それ以前の古い時代からまつられていたとおもわれます。先年札幌の森周辺の発掘調査で弥生時代の住居跡や土器がたくさん発掘され、それを裏付けています。また社伝や歴史書に、お祭、社殿、ご神宝等の奉納などが記録されています。『続日本紀』の文武天皇二年（六九八）には、養祭に見物人がたくさん集まるので警備するように、という命令が出された、という記事があります。このことから、奈良時代より前から当神社が大きなお社で、盛大なお祭がおこなわれていたことがわかります。

平安時代には、国と首都京都の守り神として、また皇室の氏神さまとして、特別の信仰を受け、別項に記します。式年遷宮や齋王の制度などがさだめられていた特別な神社であったことがしられます。そして『源氏物語』や『枕草子』など王朝文学にしばしば登場いたしますように、この時代の文化、宗教の中心地の一つとして栄えました。

平安時代末期になりますと全国に六十余箇所の荘園、御厨が寄進され神社をささえました。鎌倉時代、室町時代、そして戦乱の世になっていくにつれ、各地の荘園も連絡が次第に絶えて行きますが、代わって国民の信仰が神社をささえていくようになりました。神殿守（殿司）とよばれる人々が全国をまわってご神徳を説いていくのもこのころです。当神社を舞台とする、数多くの能（謡曲）などに、そのころの様子がうかがわれます。また国の重要な出来事には、かならずご祈願が行われました。

江戸時代にも、国と国民の幸福を祈願する神社として、神社の運営のため幕府より領地が寄せられました。明治初年、全国の神社の代表として、官幣大社の首位におかれ、今日まで国と国民のための祈願を日々おこなっています。

（詳しくは、神社発行の『賀茂御祖神社略史』をご覧ください。）



新春・お正月、蹴鞠はじめと節分の行事

元旦午前零時、開門と同時に初祈禱、初神楽の受付が始まります。また当神社のご祭神の神話による丹塗りの神矢と初神楽が三ヶ日の間おこなわれます。

四日は、「蹴鞠はじめ」です。蹴鞠は古く中国から伝来した球技で、鹿皮でできた鞠を、色とりどりの鞠装束の鞠人がおこなう優雅な行事です。

十五日に、五穀で作られたお粥をお供えする御粥祭がおこなわれます。この御粥の模様が、大炊殿に展示されています。

節分には、生れ歳の十二支と月とを表した的を立て、的には病気のもととなる「鬼」の文字がありそれを祓うために弓矢で射おとす「追儺弓神事」、豆まき、御真木神事などが行われます。

早春

春先は、みたらし川の輪橋（反り橋）の袂の、尾形光琳が国宝「紅白梅図屏風」に描いた梅の花が咲き始めます。また糺の森のヤブツバキも有名です。

桜（四月）

糺の森の桜は、朱塗りの楼門の前の山桜が特に有名です。そのほかにも、薄墨桜や桜の原種のイヌザクラなどがあり、緑の森との対比が美しい。

新緑と葵祭（五月）

糺の森がいちばん美しいと言われる若葉の季節、五月には葵祭が行われます。

行事は、三日の流鏑馬神事からはじまります。平安時代の騎射の伝統により公家装束で行われ、普通の流鏑馬とは趣を異にします。新緑の馬場で人馬一体の妙技が繰り広げられます。五日には武家装束による歩射神事もおこなわれます。

そのころ、斎王代禊の儀がみたらし川の畔で行われます。当神社には、古来「斎王」と呼ばれる特別な制度がありました。ときの天皇の内親王が、当神社の神事に奉仕される制度です。現在もその伝統を継承し、葵祭には市民の中から、その代りの「斎王代」が選ばれます。禊の儀は葵祭に先立ち、十二単衣姿の斎王代が身を清める儀式です。女官役の女性たちも、きらびやかな平安時代の衣裳の姿で参加します。

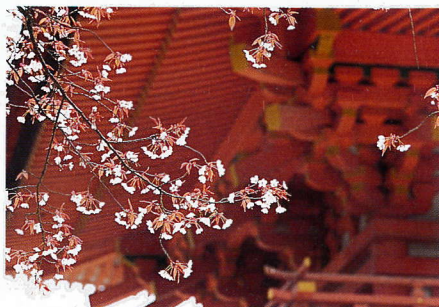
十二日に御蔭祭がおこなわれます。東山三十六峰二番目の御蔭山に鎮座の御蔭神社から、本社のご祭神の荒魂（新しい年を迎えて若々しいおちからをもたれた神霊のこと）をお迎える行事で、平安時代の衣裳をつけた百数十人のお迎への行列は、日本最古の神幸列といわれています。途中、糺の森・切り芝での還立の儀では、神馬の背に移られたご神霊の神前で、東游とよばれる古代の歌舞が奉奏されます。

十五日には、いよいよ葵祭（正式には賀茂祭）が行われます。葵祭は欽明天皇五年（五四五）よりはじめられました。平安時代には「まつり」といえば、この葵祭をさし、『源氏物語』や『枕草子』など、さまざまな文学に登場する、日本の代表的なおまつりです。

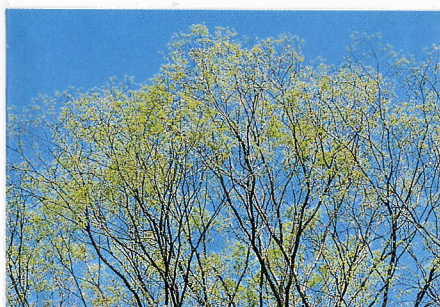
なかでも御所から下鴨神社へ参向される勅使（天皇のお使）の行列が有名で、現在でも衣冠束帯や十二単衣などの官人官女が平安絵巻を都大路に繰りひろげます。行列の拝観は京都御所と、下鴨神社糺の森の緑の中をすすむ雅やかな女人たちを参観する



橋殿周辺のツツジ



楼門前の山桜



糺の森の新緑



光琳の梅



ことができます（行列拝観席は京都市観光協会にお問い合わせ下さい。）当神社に行列が到着すると社頭では、人々の幸せを祈る勅使の御祭文（祝詞）奏上、牽馬（神さまに奉納のお馬をご覧いただく）、東遊（舞）がおこなわれ、馬場では走馬（牽馬でご覧いただいたお馬を走らせる）がおこなわれます（雨天の場合、行列は翌日に順延になります。社頭の儀の参列は当神社社務所にお問い合わせ下さい）

### あじさい（六月）

昔、朝夕のお供えを調理していた「大炊殿」（重要文化財）の庭は、「葵の庭」とよばれ、葵やカリンなどとりどりの花をつける葉草の庭です。そのほか初夏の糺の森には、あじさいが咲いています。

大炊殿では、平安時代のかたちを伝える葵祭をはじめ、年中の神事のお供えを展示しています。またこのあたり一帯は平安時代、鴨社頭の齋院御所の旧跡で、御車舎が常設の「下鴨神社史料展示場」になっています

（大炊殿・葵の庭の拝観・御車舎展示とも社務所へお問い合わせ下さい。）

### みたらし祭と夏越神事（盛夏）

土用の丑の日、みたらし祭（足つけ神事）がおこなわれます。疫病、災厄除けのお祓いの神さまを祀る「御手洗社」前の「みたらしの池」に足をつけると、無病息災ですとせると伝えられ、前日と当日には数万人の参拝者が訪れます。境内は奉納の提灯が掛けられ、糺の森の参道にも夜店が立ち並びたいへんな賑わいを見せます。

立秋の前夜には、夏越神事（矢取りの神事）が斎行されます。みたらしの池に、五十本の齋串を立て、人形を流すと同時に裸男たちが齋串をうはい合う勇壮な行事です。齋串が矢のようにみえるところから「矢取りの神事」ともよばれ、男たちが飛び込む水しぶきと頭上に舞う人形の光景は。夏の夜の風物詩として知られています。

### 仲秋の名月・名月管絃祭

みたらし川にちようど橋のようにかかっているとところから名づけられた橋殿（重要文化財）を舞台としておこなわれます。雅楽（演奏と舞楽）、箏曲、尺八の演奏が披露されます。お茶席も設けられます。やがて、ゆつくりと月が舞台の橋殿のうえに上ります。

### 糺の森の秋色・紅葉

糺の森は、落葉樹の森。秋になるとそれぞれが美しく色づきます。

特に河合神社の東の「紅葉橋」の辺りは、その名のとおり紅葉の名所として平安時代の詩歌にうたわれているように名所になっています。また、河合神社やみたらしの池の周辺の銀杏の巨木の黄葉も見事です。

### 雪景色

雪が降ると糺の森は景色が一変します。特に朱の社殿と白い雪が素晴らしい対比を見せます。また、冬の黎明、日没の空の美しさも見逃せません。



葵の庭に咲くあじさい



糺の森の紅葉



みたらし池の銀杏



雪の楼門



②河合神社と鴨長明

玉依姫命(初代の天皇・神武天皇の御母神、本宮のご祭神とは同名異神)をまつています。古くから本宮に次ぐ大社として歴史に登場し、女性の守護神として信仰されています。

『方丈記』の著者、鴨長明はこの河合神社の神官の家に生まれましたが、いろいろの事情によって、この重職を継ぐことができませんでした。このことから強い厭世感を抱くようになり、やがて『方丈記』を書くにいたったといわれています。復元された方丈が現在展示されています。



末社には任部社とよび八咫鳥をまつるお社があり、昭和六年(一九三一)日本サッカー協会設立時より、現在のJリーグにいたるまで、ご祭神の姿をシンボルマークとしています。

③三井神社 (重要文化財)

本宮の若宮(若々しいご神霊)としての信仰があり、賀茂建角身命、玉依媛命、伊賀古夜媛命の三神がまつられています。

末社には葵祭の斎王さままで知られる初代有智子内親王(平安時代の嵯峨天皇の皇女)から第三十五代礼子内親王(鎌倉時代の後鳥羽天皇の皇女)まで、歴代斎王のご神霊をまつるお社。けまりの神さまをまつるお社などが有名です。

④出雲井於神社 (通称・比良木社 重要文化財)

地主神である須佐之男命をまつっています。この神社の周囲にどのような木を植えても、柞葉のようにギザギザになることから比良木社(柞社)ともよばれています。運開き、厄除けの神さま、また茶道の神さまとして信仰されています。

末社には短歌や芸ごとの上達を祈願する神さまがまつられています。

⑤言社 (えとの守り神) (重要文化財)

- 一言社 (東社) 大国魂神(巳、未歳生まれの人の守護神)
- 一言社 (西社) 顕国魂神(午歳生まれの人の守護神)
- 二言社 (北社) 大国主神(子歳生まれの人の守護神)
- 二言社 (南社) 大物主神(丑、亥歳生まれの人の守護神)
- 三言社 (北社) 志固男神(卯、酉歳生まれの人の守護神)
- 三言社 (中社) 大己貴神(寅、戌歳生まれの人の守護神)
- 三言社 (南社) 八千矛神(辰、申歳生まれの人の守護神)

大国主命はお働きによりお名前を七つおもちで、お名前ごとに神社がまつられています。それぞれが十二支の生まれ年の守り神さまとして、また商売繁昌、事業繁栄の神さまとしても信仰されています。

一月成人の日には、初大国えとまつり、十月九日には秋祭がおこなわれ、たくさんのお詣りがあります。

(大国会会員を募集しています。社務所までお問い合わせ下さい。)

写真・横山健蔵(※印を除く)



1月4日けまり始め



節分、弓神事



3月3日ひな流し



5月3日やぶさめ神事・平騎射



⑥御手洗社（井上社）

瀬織津比賣命をおまつりしています。病気やけが、さまざまな災難除けの神さまです。お社は井戸の上に建立されており、社の前がみたらしの池と呼ばれ、下流を御手洗川とよんでいます。みたらしの池の南庭は、おまつりの時のお祓いの場所です。葵祭に先だって斎王代がみそぎをされるところです。

夏の土用の丑の日の「足つけ神事」、立秋前夜の「矢取り神事」は有名でたくさんの方で賑わいます。また、みたらしの池の湧く水のおぶくを人の形にちたどったのが「みたらし団子」で、発祥の地と伝えられています。

⑦霊璽社（印社、印璽社 重要文化財）

印鑑・契約守護の神さまとして篤い信仰があります。境内に、この霊璽社の分霊「印納社」がおまつりされており、古い印章を納めています。（古印章納のご祈祷は随時受付けています。）

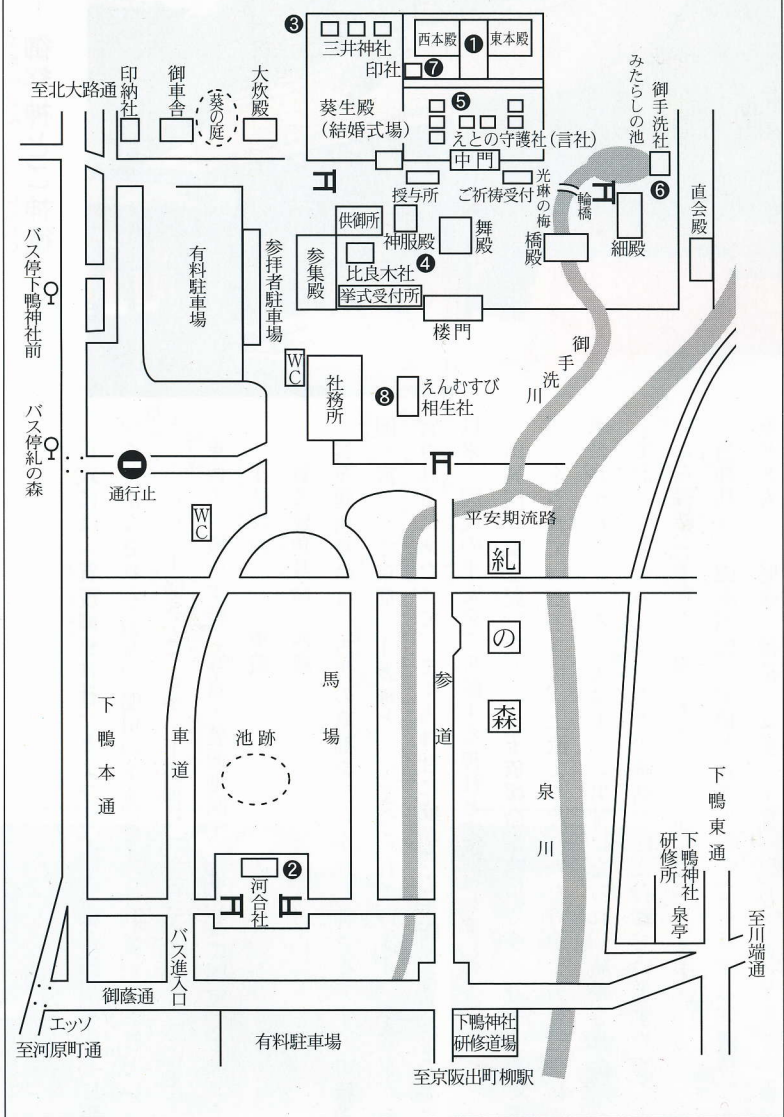
⑧相生社と連理の賢木

縁結びの神さまとして有名で、神皇産霊神さまをおまつりしています。結納の守護神としてもあがめられ、古い結納を納めるご祈祷も随時お受けいたしております。

また、お社の脇の授与所は、『源氏物語』にちなんで調製された「縁結びおみくじ」が人気になっています。

また、相生社の縁結びの霊験のあらわれによって二本の木が途中から一本に結ばれている「連理の賢木」という不思議なご神木があります。あまりの珍し

下鴨神社境内図



斎王代禊の儀



やぶさめ神事、東帯姿の射手 ※



さに『京の七不思議』にあげられています。この木が枯れると、糺の森のどこかに跡継ぎが出来るとの言伝えがあり、現在のご神木も四代目にあたります。

### 御蔭神社

比叡山の西方、東山三十六峰二番目の御蔭山に鎮座し、古代からの祭祀、御生神事、現在は御蔭祭とよばれているお祭がおこなわれます。

### 赤の宮（賀茂波爾神社）

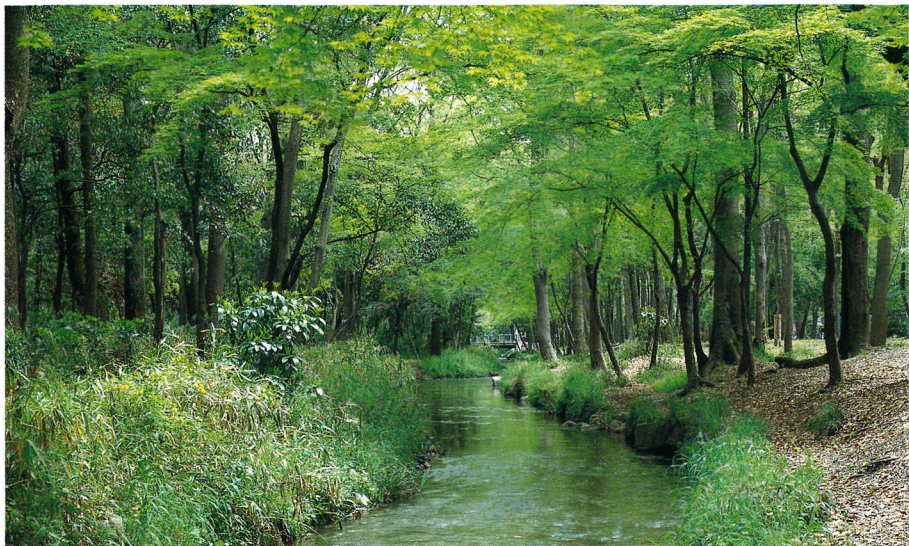
高野川の支流にあり、古くから開拓の神として篤い信仰があります。御蔭祭には「路次祭」がおこなわれ、舞楽「還城楽」が奉納されます。

### 式年遷宮と文化財の社殿五十五棟

当神社は、ほとんどの社殿を二十一年ごとにお社を造り替える式年遷宮の制度が定められています。現在はずべての社殿が国宝・重要文化財に指定されているため、大修理をもって遷宮とされています。ただいまは、第三十三回式年遷宮が平成六年に東西両本殿のご遷宮がおこなわれ、つづいて各社殿やお社の修理がおこなわれています。

社殿はいずれも平安時代の様式を忠実に伝え、本殿二棟は国宝、五十三棟が重要文化財に指定されています。

国宝の東西本殿はいずれも「流造」という様式です。この流造は全国の神社で最も多い様式ですが、そのはじまりの形をそのまま伝えていきます。



### 糺の森

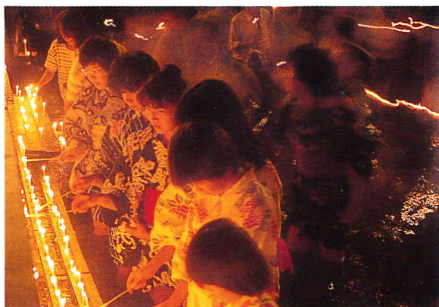
**国指定史跡 糺の森**  
三万六千坪の境内は「糺の森」とよばれ、全体が国の史跡に指定されています。また、数々の社殿群とともに世界文化遺産にも登録されています。

糺の森は、古代の山城国の名残をとどめる自然遺産で、文化財と自然環境保全のために財団法人「糺の森顕彰会」が結成され、毎年四月二十九日（みどりの日）の市民植樹祭をはじめいろいろの保全活動がおこなわれています。

お問い合わせは、当社社務所内事務局までお申し出下さい。



立秋前夜・矢取神事



土用丑日みたらし祭



5月15日葵祭・参道を進む行列

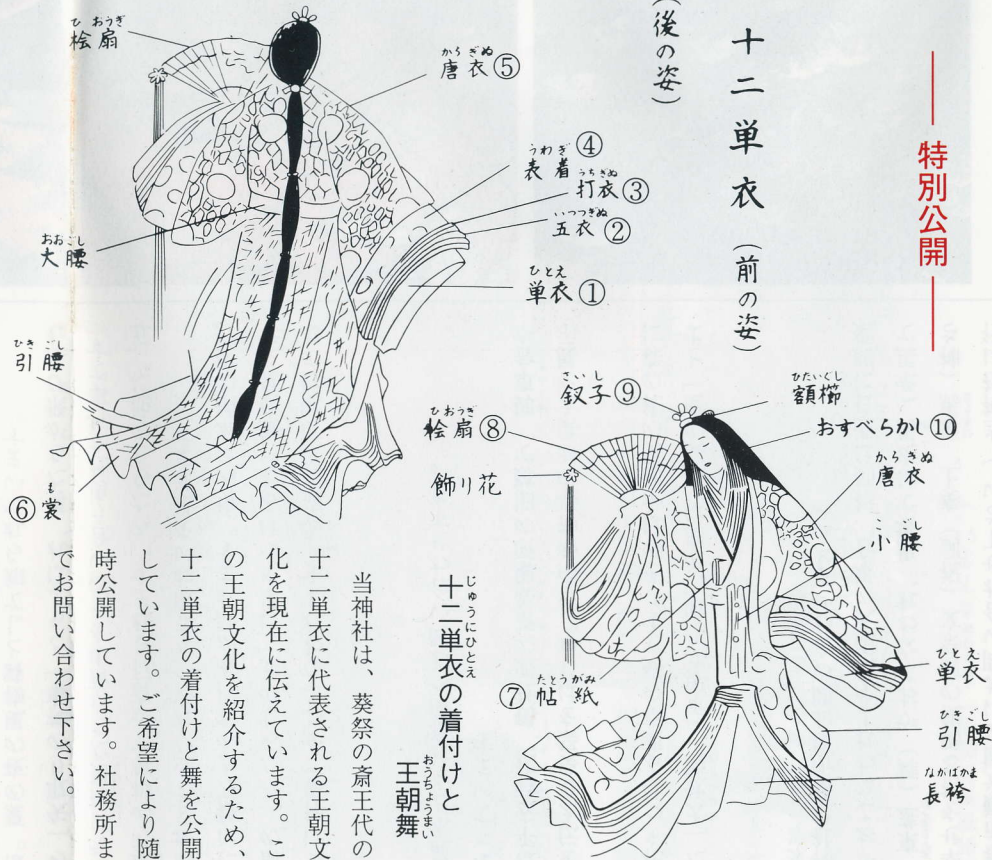


5月12日御蔭祭・切芝での東游



十二単衣 (前の姿)

(後の姿)



十二単衣の着付けと

王朝舞

当神社は、葵祭の齋王代の十二単衣に代表される王朝文化を現在に伝えていきます。この王朝文化を紹介するため、十二単衣の着付けと舞を公開しています。ご希望により随時公開しています。社務所までお問い合わせ下さい。

(束帯と十二単衣でのご婚礼も承っております。お問い合わせ下さい。)



名月管絃祭の舞楽 ※



十五夜・名月管絃祭